

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100252		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム千葉末広の家(1号館)		
所在地	千葉県千葉市中央区末広四丁目23-3		
自己評価作成日	平成30年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成30年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>現状に満足せず、法人内外の研修を行い職員の技術、知識の向上を図っている。 利用者の安心安全が保障されているか。尊厳が守られているか。不快な気持ちにさせていないか。利用者及びご家族の気持ちに寄り添って物事を判断しているか。職員本位で職員側の都合が優先されていないか。等を常に考え、自省し、サービスを提供している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>町内会主催の敬老会や近隣の保育園で子ども達による人形劇を利用者と一緒に見に行くなど、地域住民や子ども達との交流も徐々に広まりを見せており、利用者の活動や生活の幅も広がっています。また、利用者の声を大切にするために、年に一度嗜好調査を実施し、利用者の好きな食べ物や食べたい物を確認しています。嗜好調査の結果は日々の食事メニューに反映しており、今後は外食なども実施し利用者の要望に応じていくことを検討しています。また、ホーム内でのレクリエーション活動、外出活動の充実、さらには地域のボランティアの方などの導入も検討し、利用者、職員が笑顔でいられるホームを目指しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	政本グループの理念・運営目標に沿うようにサービスを提供している。朝礼・職員会議により共有するようにしている。	毎週一度法人の本部より、全職員で周知すべき事項や法人の理念が記載された朝礼議事録が送付され、全職員で確認し、法人が目指す方向性を全職員に周知し、理念に沿った介護サービスを提供していくことを目指しています。	どのようなホームを目指していくのか、ホームとしてのビジョンも明確にし、職員全体で共有し、ビジョンに基づく活動へと発展することを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出、買い出し時に地域の方々と交流を図るようにしている。地域行事への参加をしている。	町内会主催の敬老会や近隣の保育園で子ども達による人形劇を利用者と一緒に見に行くなど、地域住民や子ども達との交流に努めています。今後も地域との交流を充実させ、利用者の生活の幅を広げていくことを検討しています。	少しずつ地域との交流も進んでいますが、今後に向けては回覧板を回して頂いたり、地域のボランティアの受け入れなどを通じて、より地域交流が活性化されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加をして交流を図るようにしているが、認知症の人の理解や支援の方法等の地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で発案された事柄や意見等はサービスの向上に生かしている。	会議には地域包括支援センター、民生委員、家族、利用者代表の参加を受け定期的に開催しています。会議では利用者の現状やホームの活動報告のほか、民生委員の方から地域情報の提供を頂くなど、会議で出た意見を通じてサービス向上に繋げていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出を求められた際には、直接担当課に出向き、現状報告をおこなっている。	運営上相談事が生じた際には、市の担当課に連絡を入れ指示を仰いでいます。質問には丁寧な回答を受けることができおり、協力関係を築き運営を進めることができます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をテーマに研修を行い職員の理解を深めている。	平成29年3月に「身体拘束排除の取り組み」をテーマとした研修を内部で実施しています。また「虐待の芽チェックリスト」を全職員に配布し、注意を促しています。ホーム内では現状、身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をテーマに研修を行い職員の虐待に対する知識向上に努めている。虐待の芽チェックリストを活用している。		

グループホーム千葉末広の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解が不十分であるため活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を説明し利用者、ご家族に不安や疑問を残さないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議等でご家族の意見や要望を聞く様にしている。	意見や要望等を気兼ねなく表出できる旨は、利用契約の際に、ホーム内外の苦情窓口を家族の方に説明し理解を深めています。家族からの意見や要望については面会に訪れた際に直接確認をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議を毎月開催し、職員の意見や提案を取り入れるようにしている。	形式的な個人面談とまでは至っていませんが、館長を中心に、日頃から職員に声をかけ、職員からの意見や要望等を確認しています。支援や業務に対する職員からの提案についてはミーティングの中で集約し、日々の業務に活かせるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は就業規則を定期的に見直し、職員が働きやすい環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を行い、職員の技術、知識向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、交流する機会を設けている。		

グループホーム千葉末広の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境で安心して過ごしてもらえるように本人の気持ちを尊重するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、面会時等にご家族から要望等を聞き、良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報提供を基に必要としている支援を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等出来る事は参加していただいている。暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて様子をお伝えし、ご家族と相談しながら利用者の支援を考えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が友人等に手紙を投函したり、友人の来訪を受け入れるようにしている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、友人の来訪の受け入れ等を中心に行い、例えば利用者から馴染みの場所に行ってみたいなどの要望が出た際には、柔軟に対応していく方針としています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活のため生活習慣、価値観の違いにより意見がぶつかる事もあるが、職員が間に入り孤立しないような支援に努めている。		

グループホーム千葉末広の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者やご家族からの相談は受け入れる様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の一人ひとりの希望を聞き、思いに応えられる様に努めている。	利用者本人からの意見や要望については、職員が日常会話から収集し、日々の支援に反映できるように努めています。また、ケアプランの作成および更新時にはアセスメントを行い、利用者の現状や課題を抽出し、ケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴や情報提供を基に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の状態や変化を判断出来るように利用者に関わりを持つようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を聞き、職員ケアマネージャー、医療関係者と話し合い介護計画を作成している。	アセスメントで抽出した課題に基づき、担当者会議を開催し、職員の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプラン作成後は家族に説明し同意を得ています。ケアプランで掲げた目標の達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	ケアプランに示している目標期間について、平成〇年〇月～平成〇年〇月と明記していますが、今後は平成〇年〇月1日～平成〇年〇月31日と日付についても明確にできると良いと考えます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、申し送りノートを活用し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して、臨機応変に対応出来るように努めている。		

グループホーム千葉末広の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を行いグループホームへの理解を深めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を図り、利用者やご家族が不安なく過ごせるようにしている。	ホーム提携先医療機関とは月2回の往診を通じて連携しています。医療機関とは24時間のオンコール体制を築き、利用者の体調変化時にも迅速に対応が図れる体制としています。また必要時には訪問歯科も利用でき、必要な医療を受けられる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいないが、かかりつけ医に相談し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者との面会時等に病院関係者との情報交換や相談をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者やご家族の希望をかなえられるように終末期に向けた取り組みも考えていきたい。	ホームでは、家族の意向に沿って最期までホームで生活を送ることができる体制を整えています。ホームでできることについては利用契約時に家族に説明しているほか、ホーム内においてターミナルケア研修も実施し、職員の意識も高めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当や初期対応の社内研修に参加している。今後は訓練も行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを整備している。避難方法を全職員が身につけるとともに、地域との連携を図っていきたい。	平成29年6月と12月に避難訓練を実施しており、6月の訓練では消防署も立会い実施しています。備蓄品については水と食料を保管しているほか、法人の防災マニュアルを整備しており、災害時の手順について明確にしています。	今後に向けては、風水害を想定した訓練についても定期的の実施できると良いと考えます。

グループホーム千葉末広の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合わせた声掛けを行い、適切な対応を心掛けている。	「プライバシーの保護」や「接遇」などホーム内での研修を通じて、利用者に対して適切な対応が図れるように職員に注意を呼び掛けています。トイレ誘導時の声掛けや居室への出入りについても羞恥心やプライバシーに配慮し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が希望を表わせたり、決められるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合になっていないか、業務優先になっていないか、自省しながら利用者一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや化粧品の購入、着たい服、好み等の希望を聞いて、おしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、盛り付け等を利用者と協力しながら行っている。嗜好調査を行い、食事が楽しみなものになるよう支援している。	食材は業者への発注システムとしていますが、食事の盛り付けや食器拭きなど利用者にも声をかけ主体的に関われるように取り組んでいます。嗜好調査を年に一度実施しており、食べたいものをメニューに反映できるように努めています。	嗜好調査で出た意見を踏まえ外食なども検討しており、今後そうした取り組みがさらに充実していくことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を観察、記録し一人ひとりの必要とする量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い清潔保持に努めている。訪問診療を行い、口腔内の状態についても注意している。		

グループホーム千葉末広の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングを見計らい、トイレ誘導を行うようにしている。	利用者一人ひとりの排泄状況については「排泄チェック表」に記録し、利用者の排泄パターンを職員間で共有しています。定時の声掛けや誘導により、利用者の状態に合わせ極カトイレ内で排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて確認を行ない、運動や水分補給で自然排便が出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日で決めているが、入る順番は変えている。	利用者の体調やペースを大切に、週に3回入浴できるように支援しています。入浴状況については「介護記録」に記録しています。入浴中は職員も介助につき、必要に応じては2名介助で対応し安全に入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のペースで休んでいただいている。状態を見極め、声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬局と連携、相談をしながら、職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗濯、裁縫、園芸、レクリエーション等で役割、楽しみを見つけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴は、ほぼ毎日行っている。行事等、ご家族や地域の人々と協力出来るように支援していきたい。	天候や気候の良い日には、ホーム周辺の公民館まで散歩に出かけられるように支援しています。また、地域の敬老会に参加をしたり、保育園の人形劇の観覧、公民館で実施するお祭りや近隣神社への初詣などへの外出も行い戸外に出かけられるように支援しています。	

グループホーム千葉末広の家(1号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っている。力に応じて、お金を所持したり使えるように支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりは自由に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をし、季節を感じられるようにしている。	リビングには季節感が感じられるように装飾を工夫するほか、日差しが強い時にはカーテンで遮る等、不快なく利用者が過ごせるように配慮しています。廊下や浴室も掃除が行き届いており、衛生面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの使用を促したり、椅子を移動したり工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者の馴染みの物を持参してもらい、生活しやすくなるように支援している。	リビングには季節感が感じられるように装飾を工夫するほか、日差しが強い時にはカーテンで遮る等、不快なく利用者が過ごせるように配慮しています。廊下や浴室も掃除が行き届いており、衛生面にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りを建物内部に多く設置し、安全に移動出来るように工夫している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290100252		
法人名	医療法人社団 長啓会		
事業所名	グループホーム千葉末広の家(2号館)		
所在地	千葉県千葉市中央区末広四丁目23-3		
自己評価作成日	平成30年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成30年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>現状に満足せず、法人内外の研修を行い職員の技術、知識の向上を図っている。 利用者の安心安全が保障されているか。尊厳が守られているか。不快な気持ちにさせていないか。利用者及びご家族の気持ちに寄り添って物事を判断しているか。職員本位で職員側の都合が優先されていないか。等を常に考え、自省し、サービスを提供している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>町内会主催の敬老会や近隣の保育園で子ども達による人形劇を利用者と一緒に見に行くなど、地域住民や子ども達との交流も徐々に広まりを見せており、利用者の活動や生活の幅も広がっています。また、利用者の声を大切にするために、年に一度嗜好調査を実施し、利用者の好きな食べ物や食べたい物を確認しています。嗜好調査の結果は日々の食事メニューに反映しており、今後は外食なども実施し利用者の要望に応じていくことを検討しています。また、ホーム内でのレクリエーション活動、外出活動の充実、さらには地域のボランティアの方などの導入も検討し、利用者、職員が笑顔でいられるホームを目指しています。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	政本グループの理念・運営目標に沿うようにサービスを提供している。朝礼・職員会議により共有するようにしている。	毎週一度法人の本部より、全職員で周知すべき事項や法人の理念が記載された朝礼議事録が送付され、全職員で確認し、法人が目指す方向性を全職員に周知し、理念に沿った介護サービスを提供していくことを目指しています。	どのようなホームを目指していくのか、ホームとしてのビジョンも明確にし、職員全体で共有し、ビジョンに基づく活動へと発展することを期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出、買い出し時に地域の方々と交流を図るようにしている。地域行事への参加をしている。	町内会主催の敬老会や近隣の保育園で子ども達による人形劇を利用者と一緒に見に行くなど、地域住民や子ども達との交流に努めています。今後も地域との交流を充実させ、利用者の生活の幅を広げていくことを検討しています。	少しずつ地域との交流も進んでいますが、今後に向けては回覧板を回して頂いたり、地域のボランティアの受け入れなどを通じて、より地域交流が活性化されることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域行事への参加をして交流を図るようにしているが、認知症の人の理解や支援の方法等の地域貢献は出来ていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で発案された事柄や意見等はサービスの向上に生かしている。	会議には地域包括支援センター、民生委員、家族、利用者代表の参加を受け定期的に開催しています。会議では利用者の現状やホームの活動報告のほか、民生委員の方から地域情報の提供を頂くなど、会議で出た意見を通じてサービス向上に繋げていけるように努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類提出を求められた際には、直接担当課に出向き、現状報告をおこなっている。	運営上相談事が生じた際には、市の担当課に連絡を入れ指示を仰いでいます。質問には丁寧な回答を受けることができおり、協力関係を築き運営を進めることができます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をテーマに研修を行い職員の理解を深めている。	平成29年3月に「身体拘束排除の取り組み」をテーマとした研修を内部で実施しています。また「虐待の芽チェックリスト」を全職員に配布し、注意を促しています。ホーム内では現状、身体拘束につながる事例は発生していません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待をテーマに研修を行い職員の虐待に対する知識向上に努めている。虐待の芽チェックリストを活用している。		

グループホーム千葉末広の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解が不十分であるため活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項説明書、契約書を説明し利用者、ご家族に不安や疑問を残さないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、運営推進会議等でご家族の意見や要望を聞く様にしている。	意見や要望等を気兼ねなく表出できる旨は、利用契約の際に、ホーム内外の苦情窓口を家族の方に説明し理解を深めています。家族からの意見や要望については面会に訪れた際に直接確認をしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ユニット会議を毎月開催し、職員の意見や提案を取り入れるようにしている。	形式的な個人面談とまでは至っていませんが、館長を中心に、日頃から職員に声をかけ、職員からの意見や要望等を確認しています。支援や業務に対する職員からの提案についてはミーティングの中で集約し、日々の業務に活かせるように取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人は就業規則を定期的に見直し、職員が働きやすい環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を行い、職員の技術、知識向上を図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加し、交流する機会を設けている。		

グループホーム千葉末広の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	慣れない環境で安心して過ごしてもらえるように本人の気持ちを尊重するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、面会時等にご家族から要望等を聞き、良い関係が築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報提供を基に必要としている支援を行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事等出来る事は参加していただいている。暮らしを共にする者同士の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて様子をお伝えし、ご家族と相談しながら利用者の支援を考えていくようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者が友人等に手紙を投函したり、友人の来訪を受け入れるようにしている。	馴染みの人や場所との関係が途切れないような支援では、友人の来訪の受け入れ等を中心に行い、例えば利用者から馴染みの場所に行ってみたいなどの要望が出た際には、柔軟に対応していく方針としています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活のため生活習慣、価値観の違いにより意見がぶつかる事もあるが、職員が間に入り孤立しないような支援に努めている。		

グループホーム千葉末広の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も利用者やご家族からの相談は受け入れる様にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の一人ひとりの希望を聞き、思いに応えられる様に努めている。	利用者本人からの意見や要望については、職員が日常会話から収集し、日々の支援に反映できるように努めています。また、ケアプランの作成および更新時にはアセスメントを行い、利用者の現状や課題を抽出し、ケアプランに反映しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴や情報提供を基に把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現在の状態や変化を判断出来るように利用者に関わりを持つようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の意向を聞き、職員ケアマネージャー、医療関係者と話し合い介護計画を作成している。	アセスメントで抽出した課題に基づき、担当者会議を開催し、職員の意見を総合的に踏まえてケアプランを作成しています。ケアプラン作成後は家族に説明し同意を得ています。ケアプランで掲げた目標の達成状況は毎月のモニタリングで確認しています。	ケアプランに示している目標期間について、平成〇年〇月～平成〇年〇月と明記していますが、今後は平成〇年〇月1日～平成〇年〇月31日と日付についても明確にできると良いと考えます。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、申し送りノートを活用し介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対して、臨機応変に対応出来るように努めている。		

グループホーム千葉末広の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流を行いグループホームへの理解を深めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連携を図り、利用者やご家族が不安なく過ごせるようにしている。	ホーム提携先医療機関とは月2回の往診を通じて連携しています。医療機関とは24時間のオンコール体制を築き、利用者の体調変化時にも迅速に対応が図れる体制としています。また必要時には訪問歯科も利用でき、必要な医療を受けられる体制としています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護職はいないが、かかりつけ医に相談し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者との面会時等に病院関係者との情報交換や相談をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者やご家族の希望をかなえられるように終末期に向けた取り組みも考えていきたい。	ホームでは、家族の意向に沿って最期までホームで生活を送ることができる体制を整えています。ホームでできることについては利用契約時に家族に説明しているほか、ホーム内においてターミナルケア研修も実施し、職員の意識も高めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が応急手当や初期対応の社内研修に参加している。今後は訓練も行っていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを整備している。避難方法を全職員が身につけるとともに、地域との連携を図っていきたい。	平成29年6月と12月に避難訓練を実施しており、6月の訓練では消防署も立会い実施しています。備蓄品については水と食料を保管しているほか、法人の防災マニュアルを整備しており、災害時の手順について明確にしています。	今後に向けては、風水害を想定した訓練についても定期的な実施できると良いと考えます。

グループホーム千葉末広の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合わせた声掛けを行い、適切な対応を心掛けている。	「プライバシーの保護」や「接遇」などホーム内での研修を通じて、利用者に対して適切な対応が図れるように職員に注意を呼び掛けています。トイレ誘導時の声掛けや居室への出入りについても羞恥心やプライバシーに配慮し対応しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者本人が希望を表わせたり、決められるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員都合になっていないか、業務優先になっていないか、自省しながら利用者一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや化粧品の購入、着たい服、好み等の希望を聞いて、おしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い、盛り付け等を利用者と協力しながら行っている。嗜好調査を行い、食事が楽しみなものになるよう支援している。	食材は業者への発注システムとしていますが、食事の盛り付けや食器拭きなど利用者にも声をかけ主体的に関わるように取り組んでいます。嗜好調査を年に一度実施しており、食べたいものをメニューに反映できるように努めています。	嗜好調査で出た意見を踏まえ外食なども検討しており、今後そうした取り組みがさらに充実していくことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を観察、記録し一人ひとりの必要とする量を確保している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを行い清潔保持に努めている。訪問診療を行い、口腔内の状態についても注意している。		

グループホーム千葉末広の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミングを見計らい、トイレ誘導を行うようにしている。	利用者一人ひとりの排泄状況については「排泄チェック表」に記録し、利用者の排泄パターンを職員間で共有しています。定時の声掛けや誘導により、利用者の状態に合わせ極カトイレ内で排泄できるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェックにて確認を行ない、運動や水分補給で自然排便が出来るように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日で決めているが、入る順番は変えている。	利用者の体調やペースを大切に、週に3回入浴できるように支援しています。入浴状況については「介護記録」に記録しています。入浴中は職員も介助につき、必要に応じては2名介助で対応し安全に入浴できるように支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々のペースで休んでいただいている。状態を見極め、声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬局と連携、相談をしながら、職員間で情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、洗濯、裁縫、園芸、レクリエーション等で役割、楽しみを見つけるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外気浴は、ほぼ毎日行っている。行事等、ご家族や地域の人々と協力出来るように支援していきたい。	天候や気候の良い日には、ホーム周辺の公民館まで散歩に出かけられるように支援しています。また、地域の敬老会に参加をしたり、保育園の人形劇の観覧、公民館で実施するお祭りや近隣神社への初詣などへの外出も行い戸外に出かけられるように支援しています。	

グループホーム千葉末広の家(2号館)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は施設で行っている。力に応じて、お金を所持したり使えるように支援していきたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりは自由に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をし、季節を感じられるようにしている。	リビングには季節感が感じられるように装飾を工夫するほか、日差しが強い時にはカーテンで遮る等、不快なく利用者が過ごせるように配慮しています。廊下や浴室も掃除が行き届いており、衛生面にも配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの使用を促したり、椅子を移動したり工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者の馴染みの物を持参してもらい、生活しやすくなるように支援している。	リビングには季節感が感じられるように装飾を工夫するほか、日差しが強い時にはカーテンで遮る等、不快なく利用者が過ごせるように配慮しています。廊下や浴室も掃除が行き届いており、衛生面にも配慮しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りを建物内部に多く設置し、安全に移動出来るように工夫している。		